

千秀だより

横浜市立千秀小学校 令和6年(2024)4月30日

5月号



URL : www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/senshu/

どう飛んだか どこを飛んだのか

校長 平島幸江

校庭を取り巻く木々の緑色と、ツツジの赤色やピンク色とのコントラストが鮮やかです。4月にスタートした新年度は、あっという間に1か月がすぎました。

本校恒例のクラス名が今年も出そろいました。

「イチゴ一会」の出会いに恵まれた個性豊かな「キラキラレインボー」たちが、輝くような「光のきずな」と「えがおのパズル」なあたたかい心を持ち、おっきな「世界地図」を広げながら、味わい深い「ビビンバ」からの栄養もたっぷり、目前に広がる「大地」に伸びたひとすじの「MemoryRoad (メモリーロード)」を1歩ずつ、足あとを残しながら進む千秀小学校を目指します。ひとり一人が自分のよさを生かして1日1日を心に刻み最高の思い出を作る1年にしてほしいです。

最近、1年365日、1日1日、1歩1歩という言葉がキーワードの会話をする事が多くあります。先日実施した1年生を迎える会では、オラフというキャラクターが登場して「ぼくは溶けちゃうけれど、思い出はいつまでも心の中に。今日の日を心の中に刻んで、最高の思い出を作ってね。今日の日、この時間はもう戻ってこないからね。」と手紙をくれました。本当にその通りだと思います。ここまで年を重ねてきてしまった私にはこの言葉はささります。もっと真剣にしておけばよかったなと後悔ばかりの私です。そんなことを考えながら日々を過ごしていたところ、ある教員から「毎日、いろいろあって、3歩進んで2歩下がる、という毎日です。でも、後退しても着実に1歩は前に進んでいるということをお大切にしようと思っています。」という言葉を受けました。これも本当にその通りだと思います。後退することなくきれいに1歩ずつ前進できたなら何より良いことですが、前進と後退を繰り返し、踏みしめた後に気づいた1歩の価値は重厚だと思います。まるで裁縫の返し縫の頑丈さのように。(少々例えが適当でないかもしれませんが。)そんなことを考えていたら、ある日聞いていたラジオから「365日の紙飛行機」(AKB48、作詞:秋元康、作曲:角野寿和・青葉紘季)の曲が流れてきました。「♪・・・人生は紙飛行機 願い乗せて飛んでいくよ 風の中を力の限り ただ進むだけ その距離を競うより どう飛んだか どこを飛んだのか それが一番大切なんだ さあ心のままに365日♪」と。

「七転八起」「雨降って地固まる」「人間万事塞翁が馬」「一の裏は六」「禍福はあざなえる縄の如し」あきらめず、試行錯誤で挑戦していきたいです。

各学年ブロックでは、運動会に向けた練習も始まりました。本校の場合、この春運動会は、学級づくり・ブロックづくりを進める絶好のチャンスです。運動が得意な子も苦手な子も、それぞれがよさを発揮して運動会当日にのぞむことができるように指導に当たっていきます。上学年の運動会プロジェクトチームの活躍にも期待しているところです。それぞれが自分の持ち場に全力で取り組んでいきます。ご声援をどうぞよろしくお願いいたします。